

# あした 未来へつなぐ

【安全性向上のための取り組み】



ひとりでも多くの人の役に立つために、この北海道で地域と人のために私たちができること。JR北海道グループは、いま真摯に向き合います。「未来(あした)へつなぐ」ために。

文＝本間 吾里砂

## より安全で、信頼される鉄道を目指し 道内十二カ所の運転所に導入。 「運転士対応力向上シミュレータ」

平

成二十三年五月二十七日、石勝線で発生した列車脱線火災事故は、三年以上が過ぎた今も記憶に残る重大な鉄道事故です。

JR北海道では、この事故発生時に迅速かつ適切な避難誘導ができなかった反省に立ち、すべての運転士

が異常の事態に的確かつ迅速に対応できるスキルを身につける自らの判断で行動できるよう、今年四月

に、「運転士対応力向上シミュレータ」を道内十二カ所の運転所に導入しました。モニターを見ながら実際の運転台と同じ装置を操作



指導員は後方のパソコンで、シミュレータの設定を行うとともに訓練の様子をチェック!

した訓練ができるほか、新人運転士に向けた基本動作の訓練にも活用できま

す。また、季節、時間帯、天候などを自由に設定できるため、各人の経験年数や特性に合わせた訓練を実施できるのも特徴です。何

より、運転士の目の動きがわかる「視線検知」と、訓練中の操作を詳細に記録する「振り返り」はこのシミュレータならではの機能。これらを搭載したことで、より効果的な指導が実現しました。特に「振り返り」の機能は、運転士自身も自分の運転を客観視でき、対応力向上に役立っています。そうした機能もさることながら、本番でははけっして許されない失敗を実際に学習できるところがシミュ

レータ導入の最大のメリット。異常時に遭遇したとき、どう対処すればいいか、一つひとつ訓練できるのは、運転士にとって自信にもなります。訓練は年二回で、プログラムの内容によっては指導員が車掌役、駅社員役も一なし実施。各運転所とも一回目はすでに終了し、訓練は順調に進んでいます。

JR北海道では、今後も社員一人ひとりが危機意識を持って、安全性向上のための各種取り組みを実行し、安全で信頼される鉄道の実現を目指していきます。



モニターに映し出された架空の路線を運転しながら、設定された異常時に対応する「運転士対応力向上シミュレータ」。各運転所に一台設置したことで、頻度高く訓練ができ、運転士のスキルアップに役立っています。

し、異常時の対応力を養うこのシミュレータは、電車と気動車の両方に対応しており、各運転士の免許資格に応じた訓練が可能です。しかも、トンネル

火災、信号機やATS(自動列車停止装置)の故障など、電車・気動車それぞれ約五十の異常時を想定



リアルな画像。季節、時間、天候を自由に設定して、訓練できるのが特徴です。